

～男女平等・共同参画社会を目指して～

新型コロナウイルス感染症の影響で、家庭で過ごす時間も増えていることと思います。今回は皆さんが考える男女の役割をイメージし、改めて性別による固定的な役割分業意識について考え、一歩進んだ男女平等・共同参画社会にしませんか？

まずは…この状況をイメージしてみてください

親子でドライブに出かけて、運悪く交通事故に遭ってしまいました。子どもは重体で病院に搬送され手術を受けることになりました。ところが手術を担当する外科医が「ああ、私の子どもだ！」と叫びました。



外科医を父親とイメージしませんでしたか？

これは、父親が一家の大黒柱として外で働いて収入を得る、母親は食事を作り、掃除、洗濯をして子どもの世話をするという、以前からの家族のイメージがあったからです。

現在は専業主夫という言葉も認知されてきました。皆さんの意識はどうでしょうか？

例えばニュージーランドでは…

2017年にジャシンダ・アーダーンさんが、史上3人目の女性首相に就任。就任時は37歳。就任後に出産し、世界で初めて在任中に産休を取った首相です。パートナーと家事・育児を分担し、ニューヨーク出張時には生まれたばかりの子どもも同行したそうです。2020年10月の選挙で、アーダーン首相の続投が決まり、女性の議員は48%になりました。

ちなみに、日本の国会議員に占める女性の割合は、衆議院議員が9.9%、参議院議員が22.9%（令和元年12月）です。



男だから、女だから、と思い込んでいることはありませんか？

「女性は料理や掃除を行うのが当然？」

→性別で決めつけず、生活に必要なことは男女関係ありません。



「男性が泣くのは恥ずかしい？」

→悲しい・悔しい気持ちに男女差はありません。

「男性の仕事、女性の仕事ってあるの？」

→性別にこだわらず
チャレンジしてみましょう。



7.8%



92.2%

看護師

資料：H30年厚生労働省統計

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」の意識は変わってきています

『令和元年度男女共同参画社会に関する世論調査（内閣府）』では、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、1992年の結果では「反対・どちらかといえば反対」という意見が合計34%でしたが、2019年には、合計59.8%へ増えて意識が変化してきました。

市民意識調査では？

『朝霞市男女平等に関する市民意識調査結果報告書』（令和元年実施）から一例を挙げると、生活するための収入の確保は主に男性が担っており、日常の掃除や洗濯、買い物などの家事全般は、主に女性が担っていることがうかがえました。また、町内会や自治会などの地域活動は、男女同程度に参加しているという結果が出ています。

市民意識調査結果報告書



「名もなき家事・育児」はたくさんあります



こうして分けて考えていくと、1つ1つの家事・育児にはたくさんの要素が含まれています。家族の誰かひとりに大きな負担となっていませんか？どんな家事・育児があるか話し合ってみましょう。

大変な時だからこそ…家族を尊重し、思いやることが大切です！

家事は家族全員で、それぞれの能力や置かれている状況に応じて協力して行うものです。「仕事をしているから」とか「勉強があるから」という理由で行わなくてもいいものではありません。

家族の誰かひとりに大きい負担がかかるのではなく、家族で分け合うことが大切です。

家事を「手伝う」ではなく、「担当する」と考えてみましょう！

「手伝う」は、その場、その時だけというイメージがあります。それに対して、「担当する」は、常に自発的に責任をもって行うということです。

お手伝いも助かりますが、責任をもって行ってもらえると安心して任せられます。



家族それぞれの幸せの形が見つけられるといいですね。

～♪それいゆぷらざ(女性センター)をぜひご利用ください♪～

それいゆぷらざでは、情報・交流コーナーにおいて男女共同参画に関する図書の出し出しや情報発信(情報紙や講座のチラシの設置・インターネット閲覧など)を行っています。

また、男女共同参画社会の実現などの目的をもって活動する団体との協働を図るため、女性センター団体登録制度があります。

※男女平等推進情報「そよかぜ」は、公募市民の企画・編集協力員と協働し、広報あさか9月号と3月号に掲載しています。

☎/それいゆぷらざ(女性センター) ☎463-2697

